



研究所だより

第138号 令和7年11月
発行：草津市立教育研究所



『午前5時間制草津プラン』の実施に向けて

教育部理事 菊池 誠

令和8年4月からいよいよ『午前5時間制草津プラン』がスタートします。実施までが目前となった今だからこそ、草津市の教職員全員が本プランの“趣旨”“制度導入のメリット”“モデル実施後のアンケート結果”を改めて共通認識することで、次年度のスムーズな開始による

○こどもの表情に学ぶ笑顔が満ちあふれる学校

○教職員が生き生きと日々の授業に楽しく向かえる学校

○保護者・地域が信頼と安心の目で見つめる学校

の実現を学校と教育委員会が一体となって進めていきたいと考えます。

1. 趣旨

社会の急激な変化が進む中、こどもたちが未来において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力の育成がより重要視されています。このため、こどもの基本的・基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、本市で取り組む『スクール ESD くさつプロジェクト』の充実など、学校教育の改善や充実がより一層求められています。

そのような中、「こどもと教職員のウェルビーイングの両立」により、質の高い教育の実現に向けた取組を進めるため、令和6年4月に「学校における働き方改革推進計画」を策定し、その取組項目の一つとして小学校における日課表の見直し（『午前5時間制草津プラン』）を行うものです。

2. 制度導入のメリット

①集中しやすい授業

- ・短い時間でテンポよく学習を行うことで、集中しやすい学習環境になる。
- ・授業時間が5分短くなるため、目的やポイントをしぼった授業となるように工夫する。

②一人ひとりに合わせた学習

- ・20分の『学びタイム』を活用し、それぞれのこどもに合わせて、学習の「苦手」や「わからない」を少なくする。
- ・デジタルドリルを活用し、個別最適な学びの充実を図る。

③こどもについての話し合い

- ・こどもの下校が早まることで、教職員間での情報共有の時間を増やし、複数の視点でこどもと関わる。

④指導力の向上

- ・授業準備や研修の時間を確保することで、教職員一人ひとりの指導力を高め、教育の質の向上につなげる。

3. モデル実施後のアンケート結果

	こども			教職員		
	40分授業	午前5時間	学びタイム	40分授業	午前5時間	学びタイム
よい	59%	46%	48%	22%	23%	23%
どちらかといえばよい	28%	31%	29%	45%	45%	41%
どちらかといえばよくない	7%	14%	12%	25%	24%	26%
よくない	6%	9%	11%	8%	8%	10%

○『午前5時間制草津プラン』について、こどもたちは概ね肯定的に捉えていますが、教職員は、「朝の時間が短くなること」や「学びタイムの具体的な運用」が課題であるとされていることから、今後、教務主任会等で対応策を情報共有し、その解決を図っていきます。

『午前5時間制草津プラン』の実施に向けて令和6・7年度の2年間、タスクフォースによる協議、教職員研修や保護者説明会の開催など、学校と教育委員会とでいねいに取り組んできました。

『午前5時間制草津プラン』は、単なる日課の変更ではなく、こどもたちのよりよい学びと成長を支えるための新たな教育環境の構築です。今後も教職員の皆さんと共に、創意工夫を凝らした『午前5時間制草津プラン』の展開により、「こどもと教職員のウェルビーイングの両立」の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。



自己啓発講座

第1回草津市教職員自己啓発講座（教育相談）

不登校への向き合い方と義務教育終了後の支援

11月7日（金）一般財団法人 Atlas 代表 日野 貴博さん



不登校をどう捉え、関わるか

不登校やひきこもりについては誰も答えを持っていない。その子を支えるためにはどうすればいいのだろう。

→「本人が描くこれからの未来地図づくり」をサポート
将来どう生きていきたいかについて一緒に考えていくことはできる。家庭、学校、外部機関の協力が必要。

支援の種とは

○本人がいつ前を向くかわからない。その時のために、支援の種をまいておくこと、緩やかに家、学校以外の人や場所と繋がっておくことが大切。



小さな自信を育んでいくこと、対人不安を軽減させることを目指して種をまいておく。

支援の種1

・笑顔や優しさを感じる温かな関係性

支援の種2

・興味や関心、打ち込めること

支援の種3

・自分の役割や感謝される場

支援の種をまいて、小さな自信をはぐくむことや不安を軽減することを目指す。

事例

中学1年生のころから不登校になり、人に対しての拒否感が強かった子が、17歳の時に突然高校へ行きたいと言い出し、通信制高校へ通いだした。この子は中学校時代から SSW とのつながりがあったため、本人が前を向いたタイミングで支援をすることができた。

→本人がいつ、どんなタイミングで心のエネルギーが貯まるかわからない。その時のために、支援の種をまいておくことが大切。

一方で

自分で「未来地図」を描ける（動き出す）ようになるには、心のエネルギーの充電が必要である。不登校や引きこもりの期間は充電期間であり、関わりは継続しながらも本人の心の充電の時間も大切にしたい。

支援の種まきと心の充電の

バランスが大切

PERMA（パーマ）モデル

P・・・Positive E・・・Engagement R・・・Relationship M・・・Meaning A・・・Achievement
（ポジティブな感情）（何かへの没頭）（他者との関係性）（生きる意味）（達成）

事例

21歳の男子。中学1年から不登校になり、そのまま家に引きこもる生活。市の相談員が定期的に家庭訪問を行う（R）。Atlas の職員も同行し、本人と三人でゲームをするだけの時間が続く（P、E、R）。そこからゲームをきっかけに、小学生にゲームを教えるボランティアを提案し、ボランティアがスタート（M）。ボランティア活動に充実感、達成感を感じ始める（A）。前を向いた生活が少しずつ始まる。

参加者の感想

・家庭と学校だけでは抱えきれない、支援しきれないところを 相談窓口 支援機関 NPO 等とつないでいく助けをいただけたところが大変心強いです。PERMA モデルというのはとてもわかりやすくそういう視点を持つことを参考にしたいと思いました。

・長いスパンで緩やかにつながり続けること、担任 1 人ではなく、複数の者がチームになって関わっていくことが大切なのだと思います。



自己啓発講座

今日のこどもの姿から、明日の体育の授業をつくる8

11月11日（火）滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子さん



運動量が確保できる楽しい体育科学習をめざして

〈J・K・T・A〉

J（じゅんこ式） K（体を動かして！） T（友だちと仲良く！） A（頭で考える！）

短い時間の中で運動量を確保しよう！

【少しの工夫で運動量の多い活動に】

体育の時間に“鬼ごっこ”をさせることはありませんか？単純に5分間鬼ごっこなどをさせていませんか？その中で、隠れたり、止まったりしている子はいないでしょうか？

少しの工夫で多くの運動量に

＜範囲を決める＞

少し狭いくらいの範囲での鬼ごっこ。今回は体育館の1/4の範囲で行いました。時間は30秒ほどでも十分な運動量になります。

＜タッチされたらじゃんけん＞

タッチされたらじゃんけんをして勝ったら再び逃げます。少しの工夫を加えるだけで、動きに変化があり、“止まって走る”の動作が追加されます。

少し何かを限定することで、運動量や動きが大きく変化します。

【楽しみながら運動量を増やす】

○あっちとんでホイ！

あっちむいてホイ！を身体を使って二人組で行います。

ジャンプの方向が同じになると負けます。やってみると楽しいですよ。

○タオルを使った運動

三人組になって、二人はタオルを持って大縄跳びのように回します。

それをもう一人が跳び越えます。走りながらやるとより運動量が確保できます。

○長縄を使った運動

人数に制限を加えて長縄を使ってハの字跳びをします。

4～5人組でハの字跳びをすることで、運動量が多くなります。

○ねこ・ねずみ運動

四人組になり、一人はねこ、一人はねずみになります。

ねずみになった人と残りの二人が手をつないで円になり、ねこから守ります。

円の中心にはコーンなど目印を置くことで、多様な動きが増えます。

○お手玉を使った運動

学級全員でできる運動。並ぶ位置から3mほど後ろに置かれたお手玉を取って線まで戻って投げるだけですが、これには個人差もなくみんなが楽しめる運動です。投げる目的（的など）があるとよりいいですね。

学校にあるものだけでも、工夫次第では大きな運動量に。



参加者の感想

- ・こどもたちが目的をもって、自然と体を動かしてしまうような運動をたくさん教えていただいたので、授業の導入に活かしたいです。
- ・時間や場所、ルールの工夫によって同じような運動でも児童の運動量が、大きく変わることがわかりました。

スキルアップ支援事業

第4回スキルアップ 主体的・対話的で深い学びの授業実践が次々と…

2学期、スキルアップ支援事業（授業・学級づくり）では、各校での研究授業を進めています。

いずれの学校でも、対象者自身の向上心や課題意識に支えられた意欲的な授業づくり～授業展開が見られます。

ところで、現在、ほとんどの学校・学級で、『本時学習課題・めあての設定と提示⇒自力解決⇒ペアや小グループでの交流⇒学級全体での課題解決⇒まとめ⇒定着問題・発展問題へのチャレンジ⇒ふりかえり』といった流れが一つの学習過程として定着しているようです。

それは“主体的・対話的で深い学び”を実現するための“授業づくり～授業展開のキホンのキ”です。

ただし、ときおり、その取組が形式的なものに留まり、真に子どもの学びを活性化させるものになっていないように窺えることもあります。

スキルアップでは、対象の先生方が自らの“こどもをみつめ、みとる眼”“柔軟さ”“創意工夫の力”そして“授業を構想する力”等々を一層高めていただくことを強く願っています。



小学校 第4学年 国語科

『慣用句』

多くの先生方の参観がありました。スキルアップがOJT研修の一つの機会になる…。そうしたことが広がるとよいと思います。

中学校 第1学年 社会科

『ブラジルにみる開発と環境保全』

安易に正解を出すことのできない今日的な社会問題について議論する授業…。授業者の単元構想や発問および資料の吟味・選択に創意工夫が感じられました。



ICTスキルアップ



ICTステージ別研修

今年度より、全ての教員が授業でICTを活用できるスキルを身につけるためにステージ別ICT研修（年4回）とオンデマンド研修を実施しています。

研修内容は「教職員のICT活用スキル向上」「児童生徒がICTを活用できるように指導するスキルの向上」です。

参加された教員からは「授業でのICT活用のイメージが持てた」「授業でICTを活用する自信がついた」などの感想が寄せられています。

ICT活用支援

ICT活用支援は第5回目の授業支援が始まっています。先生方もこどもたちもタブレットの操作に慣れてきました。

思考の可視化や他者参照、思考の比較・整理などの学習場面でICTを活用した授業づくりに取り組んでいます。



登校しにくい子どもたちに ～保護者支援の大切さ～

朝なかなか起きてこない、「学校に行きたくない」と言う、登校準備に時間がかかる、分団登校ができない、保護者に送迎をねだる、一緒に教室にいてほしいと言うなど・・・

いわゆる「行き渋り」しながら、なんとか登校できているけれど、いつエネルギーが枯渇するかわからない子どもたち。どんな対応が望まれるのでしょうか。

—小2男児—

事 例

○学校での様子

・分団では登校できず保護者が送っている。保護者と離れるのに時間がかかる。登校支援室で少し休むと教室に向かえる。教室では友だちとも話ができ授業も受けられる。

○保護者との面談より

・毎日、「学校に行きたくない」から朝が始まる。起床、着替え、朝食など母がついていないと時間がかかるためイライラして疲れる。この状態がいつまで続くのかわからないのがしんどい。「行かなくていい」と言いたくなるが、そのままずっと行かなくなってしまう気がして言えない。自転車で送るので疲れる。職場に時間的な理解を求めるのに気を遣う。母に対して手や足が出る。

父は帰宅時間が遅く非協力的。

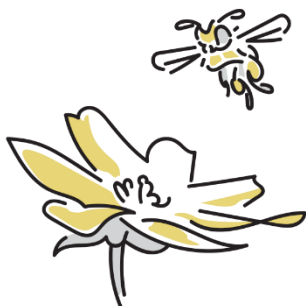


<面談を通して>

・初回面談では母の憔悴する思いや疲弊を受け止めながら安心できる対応と一緒に考えました。手や足が出るのはこどもの「助けて、苦しい、しんどい」のサインかもしれないため、こどもの話をゆっくり聞いてあげるよう助言しました。教室で授業を受けているだけでも本人にとって「がんばっている」と、こどもを見る視点を変えることや学校に行きにくい子の対応に迷いが出るのは当たり前のことと受容して面談を進めました。まだ三回の面談ですが「朝、離れる時間が短くなった」「手や足が出るのが少なくなった」「(母の)イライラが減った」など小さいながらも良好な変化が認められるようになりました。こどもの行き渋りや不登校については誰にでも話せるものではありません。疲弊し不安いっぱい保護者が安心して内心を話せる場があることで、より良いこども対応につながっていると思います。面談の中で話されたふとした事柄がこども支援のヒントを与えてくれることもあります。

担任の先生との連携はもちろんですが、登校支援室ややまびこ教育相談室、地域の相談窓口や専門機関もありますので、必要に応じて一緒に情報を整理していくことも大切です。保護者の方が孤立しないように、支援の輪を広げていくことが、安心につながります。

SSW 市川かおる





やまびこだより

サツマイモ掘り体験



10月中旬を過ぎると一気に季節が進み、少し肌寒さを感じる日も増えてきました。

やまびこ教室では、青地教室と上笠教室のこどもが集い、サツマイモ掘り体験を行いました。α工房「くさつ」さんに大切に育てていただいたサツマイモは、思っていたよりも大きなものでした。こどもたちも少し汗をかきながら、サツマイモに傷をつけまいと、丁寧に土を掘り進めていました。土の奥深くから出てきたサツマイモを手にとると、満足そうに笑みを浮かべる姿もありました。



掘ったサツマイモは、2週間ほどおいておくと甘みが増すそうです。頃合いをみて、こどもたちと焼き芋にして食べる予定です。自分たちが口にするものを収穫することは、こどもにとって貴重な経験となったと感じています。

やまびこハロウィンパーティー



《青地教室》

10月23日(木)、青地教室では、少し早めのハロウィンパーティーを開きました。今年は、パーティーに向けて折り紙や画用紙で飾りつけをして準備万端。当日は、みんなでカップケーキを作ったり、ビンゴやなんでもバスケットなどのゲームをしたりして楽しみました。それぞれ自分で選んだ衣装をして記念撮影をしたり、訪問くださった学校の先生と交流したりして和やかな雰囲気のパartyとなりました。

《上笠教室》

10月30日(木)、上笠教室でも、集まって来てくれたこどもたちとともにハロウィンパーティーを開催しました。仲間と一緒にパンケーキ作りに挑戦したこどもたちはレシピを参考にしながら自分にまかせられた分量のケーキを工夫たっぷりに仕上げてくれました。後片付けもみんなで協力しながら楽しく済ませることができました。笑顔での記念撮影の後は、パズルゲームで盛り上がり、パーティーを終えることとなりました。



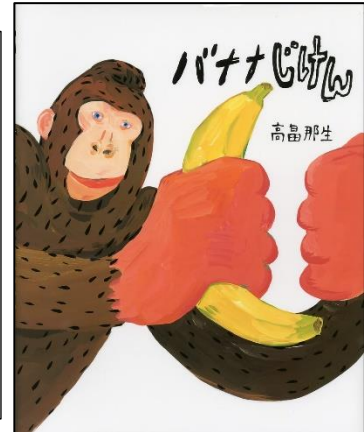
シリーズ 司書さんおすすめの絵本



「バナナじけん」 高畠 那生／作（BL 出版）

バナナが一つ車から落ちました。さるが歩いてきて、バナナをパクッ!そして皮をポイッ!そのまま歩いていきました。つぎにうさぎが勢いよく走ってきますが、バナナに気付かず、見事にすべって転びます。そのあとには、ワニもやってきました。さて、いったいどうするでしょうか。

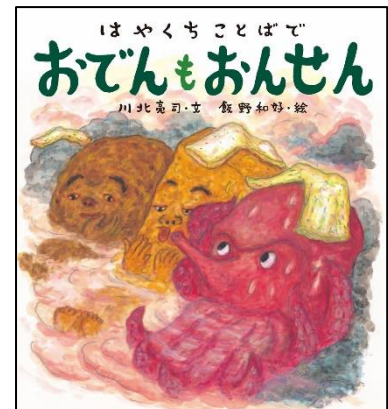
落ちたバナナによって巻き起こる出来事に、笑いが止まりません。展開が分かっているにもかかわらず何度でも読みたくなる絵本です。



「はやくちことばでおでんもおんせん」 川北 亮司／文 飯野 和好／絵（くもん出版）

おでんたちがおんせんにやってきました。からだがあったまっておくちなめらかになります。「なまたこなまあげなまがなんも」、「しらたきちゆるちゆる二ちゆるちゆる」、「かたたたききにきたたまご」など、思わず声に出したくなるようなおかしい言葉がたくさん出てきます。

ゆっくり読んでも楽しめますが、早口言葉にもぜひ挑戦してみてください。ユーモアあふれる絵とリズムカルな言葉がクセになる絵本です。



「このあいだになにがあった？」 佐藤 雅彦／作 ユーフラテス／作（福音館書店）

ふさふさの毛のやぎとつるつるの毛のやぎの写真があります。このあいだには一体なにがあったのでしょうか？ また、おたまじゃくしの写真とカエルの写真のあいだにはなにがあったのでしょうか？ 二つの写真のあいだにあった出来事を想像して楽しむ絵本です。ページをめくっていろんな想像をしながら推理してみましょう。

読み聞かせをすると、様々な発想が飛び交い、中には思いもよらぬ発想が出てくることもあります。こどもたちの反応を楽しみながら読んでみてください。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

